

ベトナムにおける日本語学習支援プラットフォーム 開発のための調査計画

チャン ホアンナム、藤原 由紀子、橋本 智
徳島大学高等教育研究センターグローバル推進部門

1. はじめに

近年、ベトナムにおける日本語学習者は急増しており、2021年の調査では16万人を超え、世界第6位に位置している。特に日本語能力試験（JLPT）の受験者数は過去10年間で約3倍に増加し、学習需要の拡大が顕著である。この背景には、日越間の経済・人的交流の拡大、就職や留学における日本語能力の重要性、さらにはマンガ・アニメなど日本文化への関心の高まりがある。こうした状況は、日本語教育のさらなる充実を求める社会的要請となっている。

しかしながら、現行の日本語学習ツールには多くの課題が存在する。例えば、Mazii や Jisho などの辞書型アプリは語彙や文法の基本情報を提供するものの、JLPT レベル別に体系化されていないため学習者の到達度に即した学習が難しい。また、既存のアプリや Web サービスでは、学習者がよくつまづく「意味の近い語彙の使い分け」や「類似文法の区別」といった点が十分にカバーされていない。さらに、多くのツールは解答に対する即時フィードバックを提供せず、誤りの原因や改善点を学習者が理解しにくい。

一方で、教育分野におけるデジタル技術の発展は目覚ましく、AI やビッグデータを活用した個別最適化学習や、マルチメディア教材を用いた効果的な学習環境の提供が可能になっている。これらの技術を日本語教育に応用することで、学習効果を飛躍的に高めることが期待できる。特にモバイル端末の普及により、学習者は時間や場所を問わず学習可能となり、柔軟な学習スタイルに対応できるシステムが求められている。

以上の背景を踏まえ、本研究ではN5 から N2 レベルの学習者を対象に、日本語語彙・文法学習を支援するウェブプラットフォームの構築に向けた調査を行う。特に本研究は、徳島大学とハノイ大学日本語学科との共同研究として実施され、両機関の知見とリソースを活用しながら、学習者の実態把握と教育資源の開発を進める点に特色がある。調査を通じて学習者のニーズ

や学習実態を把握し、体系的なデータベース整備、即時フィードバック機能を備えた練習問題、および学習を持続可能にする仕組みを設計することを目的とする。特に本プラットフォームは、ベトナム人学習者の言語的背景、学習スタイル、現地の教育的文脈を考慮し、彼らの特性に特化した設計を行う。

2. 研究目的

本研究の最終的な目的は、ベトナムにおける日本語学習者が自己学習をより効果的かつ効率的に進められるよう支援するデジタルプラットフォームを開発することである。具体的には、以下の数点を目指す。

- 学習者の実態とニーズを明らかにする調査研究。
- JLPT レベルN5～N2 に準拠した語彙・文法データベースの体系的整備。
- 即時フィードバックを備えた多様な練習問題の開発。
- 学習者の進捗管理や動機付けを可能とする学習支援機能の設計。
- 本プラットフォームは、ベトナム人学習者およびベトナム語の特性を反映させることで、より高い実用性と適合性を確保することを目指す。

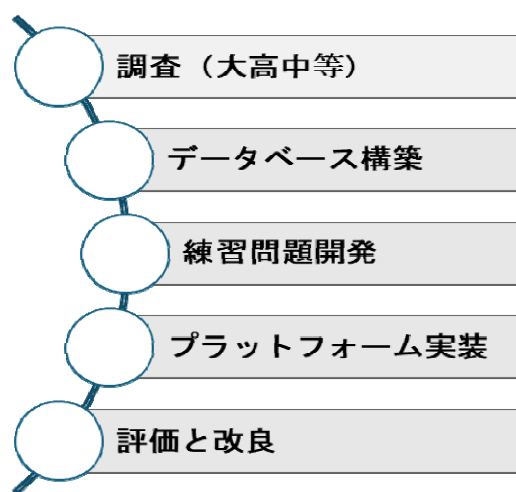


図1. 研究方法の流れ

3. 研究方法

- アンケート調査：学習習慣、困難点、利用ツール、学習目的などを広く収集する。調査は、ハノイ・ダナン・ホーチミンの3都市において、5大学、5高等学校、5日本語センター、3中学校を対象に実施する。
- データベース構築：語彙は読み方、意味、用例、類義語などを含み、文法は用法、例文、類似文法との差異を整理する。
- 練習問題開発：選択問題、穴埋め、並べ替え、ドラッグ&ドロップなど多様な形式を用い、誤答には解説付きフィードバックを提供する。
- プラットフォーム実装：ユーザーフレンドリーなインターフェースを設計し、PC・スマホ・タブレットに対応させる。さらに、試験運用を行い、学習者からのフィードバックを基に改良を重ねる。

4. 研究スケジュール (案)

2026年4月～6月 (3か月)

調査設計、調査票の作成、対象校との調整

2026年7月～12月 (6か月)

アンケート調査実施 (3都市)

データ収集・基礎分析

2027年1月～6月 (6か月)

語彙・文法データベース構築

練習問題の試作(選択問題穴埋め、並べ替え等)

プロトタイプ版ウェブプラットフォームの設計開始

2027年7月～12月 (6か月)

プラットフォーム試験運用 (PC・スマホ対応)

学習者からのフィードバック収集・改良

2028年1月～3月 (3か月)

最終評価・成果報告

学会発表・論文執筆

5. 期待される成果

- 日本語学習者が自立的かつ継続的に学習を進められる持続可能な学習環境の提供。
- JLPT受験や実用的なコミュニケーションに役立つ体系的な教材資源の整備。
- 大学や語学教育機関において授業補助教材やオンライン教育資源として活用可能な基盤の構築。

- 教育のデジタル化を推進し、AIを活用した高度な教育手法の導入可能性を広げること。
- 最終的には、ベトナムにおける日本語教育全体の質的向上と、学習意欲の向上に寄与すること。

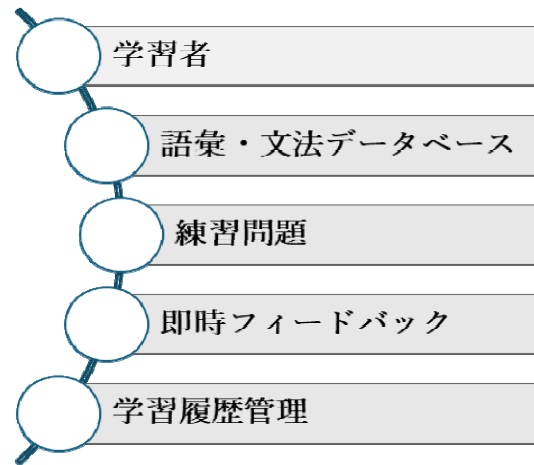


図2. プラットフォーム構成イメージ

6. 終わりに

本発表では、ベトナムにおける日本語語彙・文法学習を対象としたウェブプラットフォーム構築に関する調査計画を紹介する。近年、ベトナムの日本語学習者数は増加しているが、既存の学習ツールは体系的や即時フィードバックに乏しく、学習効果に課題がある。そこで、本研究では、N5～N2レベルの学習者を対象に、学習実態やニーズを調査し、その結果を基に語彙・文法データベースの整備、練習問題の開発、学習支援機能の設計を行う。そこで、学習者に有効で持続可能なデジタル学習環境の実現を目指す。

文献

Tran HN. Situation of Japanese Language Education at Selected High Schools in Vietnam, 徳島大学国際センター紀要年保, 1-4, 2019.

Tran HN, Marinova K, Nghiem HV. Exploring Perceived Speaking Skills, Motives, and Communication Needs of Undergraduate Students Studying Japanese Language, Education Sciences, 13, 6, 550, 2023.

石黒圭, 佐野彩子, 吉甜. 世界の日本語学習者の辞書ツール使用事情. 社会言語科学, 26(1), 5-20, 2023.

Ruzegea M, Msonde S. University Students' E-Resource Usage: Predictors, Problems and Practical Implications. IJEDICT, 17(2), 104-119, 2021.